

本校の概要

課題

改善の方向

【内容】

学習指導要領の内容である「知識及び技能」および「思考力、判断力、表現力等」の双方において、全国平均を下回っている。

言語活動の事項別に見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」において、全国平均を下回っている。

領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」において、全国平均を下回っている。

いずれの事項においても、記述式の問題における無解答の割合が全国平均より高くなっている。

・複数の条件を整理して考えを記述する力の育成

●「情報の扱い方に関する事項」において、指定された複数の構成条件（書名、本文内容、かぎ括弧の使用、考え）を整理し、140字以内で記述する問題で条件を満たしきれない児童が多く、記述式問題の正答率の低さや無解答率の高さに課題がある。

・本文の根拠に基づき自身の経験と結びつけてまとめる表現力の育成

●「書くこと」において、文章から言葉や文を取り上げ、自身の経験と関連付けて考えをまとめる問題の無解答率が全国平均を大きく上回っており、文章を組み立てて書き切る力に課題がある。

・記述における「条件チェック」の徹底と引用指導の確立

○書く活動において、あらかじめ提示された記述条件を確実に把握させ、書き終わった後にも条件を満たしているか自己評価する過程を位置付ける。また、本文の言葉や文を引用して自分の考えを支える記述の型の指導も行っていく。

・「話し合う活動」を通じた書く内容の明確化と対話の充実

○一人で記述に取り組む前段階として、学級の友達同士で考えを話し合う時間を設定するなどの工夫を行う。

○他者の多様な意見に触れることで自分の考えを深め、書くべき内容に見通しをもたせてから書かせるなど学習活動を充実させる。

本校の概要

課題

改善の方向

【内容】

学習指導要領の領域別に見ると、「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」において、全国平均を下回っている。

一方、「測定」においては、全国平均をほぼ同程度であるが、やや下回っている。

評価の観点別に見ると、「知識・技能」および「思考・判断・表現」の双方において、全国平均を下回っている。

いずれの領域においても、記述式の問題における無解答の割合が全国平均より高くなっている。

・実生活の場面における数量や図形の特徴を言葉と数、式を用いて説明する力の育成

●「図形」領域における直方体の送料を求める問題や分数の大小比較の理由を説明する問題において、求め方の根拠を数や言葉を用いて筋道立てて記述する表現力に課題がある。

・表やグラフを読み解き矛盾点の根拠を論理的に記述する力の育成

●「データの活用」領域において、二つの異なる表から集計の誤りを特定し、その人数や言葉を根拠に記述する問題で、論理的説明力に課題がある。

・記述問題に対して粘り強く取り組む姿勢の育成

●記述式問題で「最後まで解答を書こうと努力した」児童の割合が全国平均を下回っており、途中で諦めてしまう姿勢の解消に課題がある。

・解決のプロセスを説明する言語活動の日常化

○算数科において、答えを導き出すだけでなく、「どのように考えたか」のプロセスについて、図や数直線、言葉、数、式を用いて説明する活動を日常の授業に定着させる。

○複数の資料や表を相互に関連付けて読み解く指導の強化 日常生活の事象に基づいた二次元の表や統計資料から、必要な情報を正しく抽出し、矛盾や差異を読み解いて記述する学習機会を充実させる。

・きめ細かなフィードバックの充実による書くことへの意欲向上

○記述を途中で諦めてしまう児童への支援として、部分的な記述であってもその努力（中間正答など）を評価し、どうすればより良くなるかを具体的に伝える個別最適なフィードバック体制を強化する。これにより書くことへの抵抗感を減らし、粘り強く取り組む力を育む。